

人権・平和・環境

# あしだかわ

## 発行

南部ブロック社会教育センター  
 福山市水呑町4748  
 (水上スポーツセンター内)  
 TEL 956-4641  
 FAX 956-6070

## 【公民館】

泉 951-1557 熊野 959-0001  
 山手 951-9381 水呑 956-3943  
 津之郷 951-1002 高島 956-0219  
 赤坂 951-1001 鞆 982-2664  
 瀬戸 951-1003 走島 984-2550  
 明王台 952-3511 内海 986-3722

## 【コミュニティー・館】

山手 951-5679  
 瀬戸 951-1809  
 鞆 982-1882  
 熊野 959-0943  
 能登原 987-2559

E-mail:nanbu-shakyou@city.fukuyama.hiroshima.jp

福山市ホームページ (URL:<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/>) からキーワード「あしだかわ」で検索



### 《城西校区人権学習講座 報告》

第1講座 「きっと笑って会える日を」～結婚差別の体験から～  
 大阪府箕面市萱野中央人権文化センター職員 井上 康子さん

講師の井上さん自身の被差別部落出身男性との出会い、交際、結婚に至る過程のなかで体験した結婚差別の実情について話を聴きました。自分の家族や親戚中から猛反対を受け、何度も挫折しそうになったり逃げ出したくなるなかで、「差別する人を憎むのではなく、差別を憎め」という彼の支えの中で説得を続けます。しかし最終的には「養女に出て戸籍を別にするなら結婚を許すが、親子の縁は切る」といわれて結婚に至ります。「部落差別は、被差別の側の人間を傷つけて苦しめる理不尽な問題だけではなく、差別する側の人間性や関係をも崩壊させてしまう」という体験談には鬼気迫るものがありました。「外国人がいるから外国人差別があるのか？障がい者がいるから障がい者差別があるのか？そうじゃなく、世間体やしがらみというひとひとつななかさべつと理解したという。そして、自分も母親になり、両親に会いたい気持ちが募るなか、一方的ではあるが手紙や部落問題の本などを贈り続けた。「いつか笑って会える日を」待ち続けて。

そして、12年ぶりに家族と再会する日を迎えた。この間、母は母なりに勉強していた「なぜあの子が出て行かなければならなかったのか」自問自答しながら勉強したという。「部落問題と出会って感謝している。社会のことがよく見えてきた。不合理や矛盾、そして人が人として生きていくのに大切なことは何なのかを」父が生前言ってくれた。がんじがらめの差別意識が解き放たれた。人間は醜いところもあるが、分かりあえる力ももっていると思った。

最後に井上さんはこう締めくくった。「まだ、差別や偏見はあります。でも、気付いた時が始まりです。自分には何が出来るかを考え始めたとき、人は変わり始めるのです。人は変わるのです。」

### 第2講座 トーク&ライブ「笑顔の明日をつかもうよ」

堤 友彦さん 堤 恵子さん

堤友彦さん、恵子さん親子によるトーク&ライブを行いました。友彦さんは、1歳のとき、転落事故により左の脳をほとんど失い、「喋れない、歩けない、全盲、知能さえわからない」といわれながらも、音楽と出会い、保育所から高校まで地域で生きるなか、障がいの壁をたくさんの人たちに支えられながら乗り越えてこられました。友彦さんの明るくびやかな歌声の合間、恵子さんは語りかけます「『ダメもと』はとても大切です！ダメなこともありますが、叶うこともあります」「夢をあきらめないで！笑顔の明日をつかもうよ」。現在友彦さんは、音楽療法の助手として勤めながら、母の恵子さんと共にトーク&ライブを積極的に行っています。

### 第3講座 映画『火垂るの墓』

戦争文学の名作として有名な野坂昭如さんの直木賞受賞作『火垂るの墓』の実写版映画を鑑賞しました。

1945年(昭和20年)6月神戸全域を襲った空襲で母を亡くし、父は出征したまま連絡が途絶え、清太は妹節子とともに西宮の遠い親戚宅で世話になるが、おばさんの冷たい仕打ちに耐えられず、その家を出て防空壕の中で二人だけの生活を始めるが...

1945年(昭和20年)8月15日の敗戦は、兄妹にとって戦争の終わりではなかった。実際の戦争の姿を現すひとこまですが、参加者は平和の大切さと二度とこのような出来事を繰り返してはならないと決意を新たにしました。

